

5月26日、東京都の新宿プリンスホテルで、関東志布志市ふるさと会が開催されました。

これまでは、関東松山会、関東志布志会、関東有明べぶん会との総会がそれぞれ行われていましたが、本市の合併に伴い、初めて、合同で開催されました。

当日は120名を超える参加があり、盛大なものとなりました。その中で、関東有明べぶん会会長の森



関東志布志市ふるさと会 in 東京

会に駆けつけた三遊亭圓歌師匠



一つの葉から枝分かれています
オオタニワタリが枝分かれ！？

志布志町帖にお住まいの上原久夫さんが所有するオオタニワタリが珍しい形になっています。

志布志自然愛好会に所属、自然公園指導員もされている上原さんは「通常、軸から伸びる葉は1本で、複葉になる事は極めて珍しい。大きさも通常のオオタニワタリの半分ほどの大きさしかない。2世代目も同じような形が確認されたので、志布志で生まれたシブシタニワタリと呼ぶようになれば」と話していました。

仲博さんとのご縁で、落語家の三遊亭圓歌さんが見えになり、落語を披露されました。圓歌さんは志布志市を訪れたこともあり、志布志市のために何かできることがあればとの強い思いをお持ちであったことから、ふるさと大使になっていただく事をお願いしたところ、快く承諾していただきました。



交流を深めました



優勝おめでとうございます
県大会で優勝しました

6月3日、日置市で開催された第34回 鹿児島県少年剣道錬成大会において通山剣道スポーツ少年団が小学校高学年の部で優勝、7月31日～8月1日に開催される、全日本少年錬成大会へ出場します。

高学年の部は、5～6年生ですが、同少年団は6年生がおらず、全て5年生での快挙です。主将の藤田夢翔さんは「チーム内の連携と監督の指示通りの動きにより、なんとか優勝できました」と話してくれました。

青年海外協力隊の一員として、エルサルバドルで同国柔道連盟の技術指導に当たっている志布志市出身の藤後あさみさん。嬉しい報告がありましたので、ご紹介します。

私は今、中米エルサルバドルで柔道ナショナルチームの指導を行っています。ロンドン・オリンピックに66kg級で出場が決まったカルロス・フィゲロア・アラルコン選手を、着任からオリンピックへの出場が決定するまで指導してきました。今回、カルロス選手の強い要望により、JICAの支援のもと、私も特別コーチとしてオリンピックに同行することになりました。ロンドン・オリンピックに同行するのは世界中に派遣されているボランティアの中でも私一人と聞いており、非常に楽しみであると同時に大きな責任を感じています。7月29日に行われる試合に、カルロス選手が万全な状態で臨めるよう、サポートしていきたいと考えています。応援よろしくをお願いします。

カルロス選手と藤後あさみさん



カルロス選手と藤後あさみさん



志布志のために！綺麗になりました
ボランティアでごみ拾い

6月14日、志布志市商工会青年部の皆さんが、国道220号線（関屋口から稚児松交差点まで）のごみ拾いをボランティアで行いました。

この活動は『“絆”感謝運動』と題し、6月10日の商工会の日に合わせて全国の商工会青年部が地域貢献事業を行っています。同青年部では、志布志市で最も人通りが多い路線をきれいにしたいという思いから、20人ほどが参加し、地域との“絆”を実感しながら、活動しました。

6月3日、医療法人左右会曾於地区障がい者相談支援センターとびろうの会が主催するバリアフリーツアーが開催され、20人が参加しました。今回で5回目の同ツアーは誰でも参加できるツアーとして平成22年度から始まり、今回は「電車で行く日南路（鉄肥）」ということで、志布志駅から電車が発発し、鉄肥駅に到着後はそれぞれ城下町を散策しました。参加したびろうの会会長の原迫一



バリアフリーツアー開催！

美しい街並みを堪能しました。



市さんは「初めて参加したが、車いすを利用する人の不便さにあらためて気付いた」と話しました。

また今回で3回目の参加になる舟井美咲さんは「実際に道路を歩いている、道がきれいじゃないと歩くのにもひどく苦勞する時があるので、改善してほしい」と話しました。

スタッフや駅員などに乗り降りの手伝いをしてもらいながら行程を終了した参加者は、一様に晴れやかな表情で志布志駅に到着しました。

楽しい1日をご過ごせました。

6月13日から9月7日まで、有明町蓬原の増田禎朗さん宅（民宿すず風）に、ウズベキスタンからマンズロフ・ディローラさんが日本語の勉強のために滞在しています。

ディローラさんは、看護師の仕事のかたわら、同国リシタンの日本語学校「ノリコ学級」でボランティアでJICA青年センターの運営の手伝いをしており、母国で日本語教師になる夢を実現するため、日々努力しています。

志布志の自然の美しさ、食べ物のおいしさにびっくりしたというディローラさん。日本とウズベキスタンを結ぶ大きな懸け橋になってくれる事を期待しています。

日本語を学んでいます！



日本について、志布志について学んでください！



郷土料理のコツが分かりました

郷土料理教室が開催されました

6月24日、生活研究グループ連絡協議会が主催する、第13回郷土料理教室が開催されました。

21名の参加者とグループ員が、志布志市の郷土料理5種を調理して味わいました。メイン料理の「でんぶんそば汁」の調理では、参加者全員がでんぶん粉と小麦粉をこねてそばを打ちました。

調理実習のほか、竹の子の保存食の作り方講習もあり、参加者からは「とても勉強になった。ぜひ家庭で実践してみようと思う」と感想が寄せられました。この教室は、食育活動の一環で毎年6月の食育月間に合わせて開催されています。